素朴で可憐（かれん）

玉石から生まれる芸術　石こけし

瀬田敏雄さん（安原）

二つの重なり合う玉石に、お化粧して着物を描く―。作り手の愛情が吹き込まれたその表情は、素朴でかわいらしく、頭の位置で色々な表情を見せてくれます。

石こけしは、故・樋口円石（喜助）さんが約40年前に考案。病に倒れ日野町で静養中、日野川の河原にちらばる玉石が偶然に重なり合う姿を見て想像をふくらませた。現在、小川美石（宇佐美）さん（溝口町）が、その技術を受け継いでおられます。

石こけしを後世に残そうと3年前に「石こけし保存会」を結成。小川さん指導のもと保存会のメンバーは、伝統の重さやすばらしさを感じながら、石こけし作りに取り組んでいます。

私が始めたきっかけは好奇心。作れば作るほどその難しさが筆先から伝わり、奥の深さを感じます。しかし、描けば描くほど魅せられる。

このまちに伝わる手作りの民芸品「石こけし」。これからもこのすばらしい芸術を広く伝えていきたいと思います。

瀬田敏雄作　石こけし

■広報ひの 10月号 NO.609
■発行　日野町役場　〒689-4503　鳥取県日野郡日野町根雨101　TEL（0859）72-0332　FAX72-1484
■編集　企画振興課　■印刷　株式会社高下印刷
■ホームページ http://www.town.hino.tottori.jp/　■電子メール info@town.hino.tottori.jp